

2017年度 事業計画書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2017年度 活動テーマ

三位一体で描く消費環境デザイン － 消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会 －

2016年度は4月に女性活躍推進法施行、10月には消費者庁における消費者志向経営推進組織のメンバーとしての活動を開始するなど、当協議会にかかわりの深い「生活者視点」と「女性の就労」に関する動きが活発な1年であり、生活者と企業をつなぐ場や機会を展開するとともに、消費者庁や内閣府、経済産業省等の関連省庁との連携を深めながら活動を行った。また、内閣府、男女共同参画推進連携会議と共催で実施したシンポジウムは、昨年度の活動テーマである「働く女性の三方よし ～“自分よし・企業よし・社会よし”の視点で生活者を考える～」を体現する有意義な機会となった。さらに、当協議会の会員企業事例を集めた冊子での消費者教育活動、顧客対応ノウハウをまとめた「お客様対応基礎講座」の開催や「お客様対応マニュアル」の発行など、企業の女性視点を横断的にまとめて情報発信してきた。

2017年度のテーマは「三位一体で描く消費環境デザイン －消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会－」とした。今日求められている消費者志向と持続可能な社会に不可欠なのは、消費者がどう考えるか、次世代の消費や社会が今後どうなるかを見通すための知識と想像力である。次世代を含めてどのような消費環境を思い描くのか、それに向けてどのような活動・施策が必要であるのかを事業者団体である当協議会の特徴を活かして横断的に検討し、社会発信していきたい。そのために、生活者と企業をつなぐ役割に加え、異業種で構成されている事業者団体としての強みと生活者視点を活かして行政と企業のパイプ役、生活者と行政のパイプ役としての活動も意識していきたい。

【2017年度の活動方針】

- ① 40周年に向け、活動の集大成冊子を企画・作成する。これにより、ヒーブのこれからを概観し、活動意義の再考と今後の方向性のデザインをする。
- ② 行政との連携をますます発展・強化することで、より社会のニーズを意識した活動につなげると共に、ヒーブのプレゼンスを高められる活動を展開する。
- ③ 昨年度に引き続き、消費者対応スキルに加え、プレゼンテーション能力を中心とする「発信力」に重点を置いたコミュニケーション能力の向上や、消費者関連の専門知識や最新情報・動向についての学習機会を積極的に創出し、会員の資質と意識の向上に努める。
- ④ 会員間および先輩ヒーブ会員との連携、他団体や行政関係との積極的な交流や合同イベントなどを行うことで、会員のネットワークと視野の拡大の機会を増やす。
- ⑤ 消費者志向経営と男女共同参画を念頭に、魅力ある活動を企画・実施し、会員・賛助会員の満足度向上と新規会員の獲得に尽力する。

2017年度代表理事 宮木由貴子

I. 2017年度事業計画

【東京本部・グループ活動】

1. 企画グループ

【活動目標】

- ・生活者と企業のパイプ役として、会員がより良い仕事をするための能力向上を図る。
- ・会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
- ・会員一人ひとりがヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
- ・日本ヒーブ協議会（以下協議会とする）の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
- ・会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

(1) 活動目的

- ① 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める。
- ② 各支部が活動テーマを踏まえ、地域性を活かしながら運営できるよう支援するとともに、連携することにより相互の資質の向上を図る。
- ③ 協議会の代表として、他団体、行政、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、協議会の存在・活動を社会にアピールする。
- ④ 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し改革を推進する。
- ⑤ 優れたヒーブ会員の育成を図るため、自主的な研究活動を支援する。また、ヒーブの働きを社会にアピールする。
- ⑥ 協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

(2) 活動内容

- ① 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- ② 時代にあった協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- ③ 関西・九州支部の運営委員と適宜交流・情報交換を行い、支部活動の効率的な運営を図る。
- ④ その他、期中に発生する課題や提案に応えるための企画・支援を行う。
- ⑤ 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体・事業者団体との「連携」と「協働」を目指し、社会の変化にあわせた積極的な活動推進を図る。

2. 研究会推進グループ

(1) 活動目的

① 会員の能力向上

働く女性として必要な「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるような月例研究会等を開催する。

② 協議会活動への参加促進

月例研究会の企画・運営や分科会活動、自主研究会活動に会員が積極的に参加できる運営を目指し、会員および会員企業のニーズに沿った月例研究会等を開催する。

③ 会員・会員企業・会員企業外とのコミュニケーションの促進・支援

会員・会員企業間のネットワーク作りを支援するとともに、有識者や会員外企業等に講師依頼や見学会依頼を実施することで多方面との交流を図る。

(2) 活動内容

① 総会・公開講演会の運営

- ・年に1回開催する総会および公開講演会を企画・運営する。
- ・公開講演会を企画・運営する月を適宜設け、協議会の対外的な認知を高める。

② 月例研究会の運営

- ・有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会などを中心に月例研究会を企画・運営する。

③ 分科会・自主研究会活動の推進・運営

- ・「月例会企画・運営分科会」「調査・消費者関連情報分科会」「お客様対応を考える分科会」「商品・サービス研究分科会」の4つの分科会で活動を行う。
- ・分科会活動を通じて知識面・実践面で即戦力となるスキルの向上を目指し、各分科会の活動を支援していく。
- ・月例研究会での分科会活動時間を効果的に確保し、活動を支援する。
- ・活動成果を会員・会員企業等に報告するとともに、企業や社会に対する情報提供を支援する。

【スケジュール（予定）】

公開講演会 (公開講座含む)	4月 12月
講演会	5月 6月 7月 9月 11月 1月 2月 3月
見学会	10月
分科会活動	5月 6月 7月 8月 9月 11月 12月 1月 2月 3月
自主研究会	随時

3. 組織の活性化を図るグループ

(1) 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

(2) 活動内容

① 会員の管理と拡大

- ・会員数増加に向けた具体的な戦略活動を構築し、会員参加で取り組める積極的な活動を展開する。
- ・会員名簿を更新し、会員の業務に活かせるネットワークの促進を図る。

② 諸規則の見直し

現状に則した内規類の見直しを実施する。

③ 会員活動の推進

- ・会員が協議会運営に参加し、会員活動の活性化につながるよう役割を明確化する。
- ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、会員から募集を行い参画意識を高める。

④ 交流会の開催

・より多くの会員と交流が図れるよう、月例研究会等にあわせて交流会を積極的に開催する。

⑤ 会員へのガイダンス

- ・協議会に関する理解を深めるため、協議会活動について5月の月例研究会またはその前後で説明を実施する。

⑥ 「理事会だより」のホームページ掲載

- ・理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する。

⑦ 理事・監事選挙

- ・選挙管理委員会を組織し、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する。

4. 広報グループ

(1) 活動目的

- ①協議会の存在およびその活動を広く外部に報せ、理解促進・認知度向上を図る。
- ②生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

(2) 活動内容

①情報発信

- ・社会に向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知および理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
- ・会員及び会員企業に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。

②広報誌の作成

協議会の活動目的と活動内容および参加企業を広く紹介するためのツール「What is HEIB?」と機関誌「レポートヒーブ」をそれぞれ年1回作成する。

③ホームページの運営

- ・外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、魅力あるホームページの作成ならびに維持管理を目指す。
- ・「メンバーズコーナー」ページにて月例研究会の活動状況など、会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つコンテンツを充実させる。

④生活講習等

- ・講師の派遣等を通じて生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

5. 調査グループ

(1) 活動目的

- ①協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集・分析し、会員及び会員企業の業務に役立てる。
- ②情報収集・分析・活用といった情報リテラシー力を高めるとともに、調査ノウハウを習得し、実務に活かせるようにする。

(2) 活動内容

①社会調査や分析手法、結果の表現ノウハウの習得

- ・官公庁データ等の情報ソースや情報収集方法についての勉強会を実施する。
- ・調査・分析手法について学び、会員調査に活用、実践する。
(会員満足度調査、来場者アンケートなどの作成、分析)

②会員及び会員企業への情報発信、サポート

- ・会員の業務、企業に活かせる成果物を検討し、収集・加工・共有化を図る。
- ・分科会活動内容を事前に計画することで、活動の全体像を明確にし、参画効果やメリットを可視化する。

③40周年に向け、活動の集大成冊子の作成計画を立案し、各分科会と連携しながら全体のとりまとめを担う。

【支部活動】

1. 関西支部

(1) 活動目的

- ① 月例研究会活動を通じて、会員一人ひとりが「現状認識からの問題提起」「解決に至るまでのプロセス管理」「プレゼンテーション力」等の能力・資質向上を目指す。
- ② 会員相互のコミュニケーションを深めて相互に影響し合える関係を構築し、業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する。
- ③ 生活者視点やヒーブで学んだ成果の業務への貢献を追求して、ヒーブの存在価値を再認識する。
- ④ 支部を超えての会員相互、先輩ヒーブとのつながり、関西エリアでの行政・他団体・大学生等とのコミュニケーションを図る。

(2) 活動内容

- ① 月例研究会活動
 - ・前年度の振り返りミーティングでの意見を反映した「月例研究会運営マニュアル」にそって、2017年度運営委員（支部長、各チームリーダー・サブリーダー、会計）を中心に活動を行う。
 - ・会員の資質向上のみならず、業務へフィードバックができる研究会活動を目指す。
 - ・課題を解決して「月例研究会運営マニュアル」を適宜改訂し、効率的な支部運営を行う。
 - ・チーム運営により、会員全員が月例研究会の運営に参画し、企画・運営のスキルを身に付ける。同時に、会員同士のネットワークを強化する。
 - ・公開・セミ公開講座を開催し、会員企業への貢献度および協議会の認知度を高める。
- ② 分科会活動
 - ・「お客様対応を考える分科会」「商品・サービス研究分科会」を立ち上げて、生活者視点・ヒーブ視点を追求して専門性を磨くとともに、異業種交流やネットワーク醸成を行う。
 - ・東京本部の分科会活動とも有機的連携を行う。
- ③ 広報活動
 - ・他団体・行政・大学等との交流によりヒーブの認知度を高める。
 - ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い、新規会員の獲得に努める。
- ④ 組織活動
 - ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、情報交換会を継続して行う。
 - ・協議会活動は会員一人ひとりの参加からなることを認識し、全員参加型の活動を実践する。

【スケジュール (予定)】

5月16日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンスミーティング ・ 支部大会 ・ 公開講演会 ・ 情報交換会
6月20日 (火) 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 組織・月例研究会運営 ・ 情報交換ランチ ・ 会員の仕事紹介 ・ 月例運営マニュアルの読み合わせ、分科会企画、ミーティング
7月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学会 大阪企業家ミュージアム(案) ・ 講演会 ・ ミュージアム見学
8月2日 (水) 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップセミナー ・ もしもし検定4級 研修・試験 ・ 分科会
9月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様対応関係の講演会 ・ 分科会
10月 ヒーブセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 ・ ヒーブカフェ ・ 情報交換会
11月28日 (火)	ACAP・日本ヒーブ協議会合同月例研究会
12月 月例研究会	集中分科会
1月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング関連の講演会 ・ 分科会
2月 月例研究会	<ul style="list-style-type: none"> 組織・月例研究会運営 ・ 情報交換ランチ ・ 分科会発表会 ・ 2016年度の振り返り、2017年度計画・予算
3月 月例研究会	企業研究会

2. 九州支部

(1) 活動目的

- ① 本年度の九州支部は『有機的な関係性 (Organic Relation)』構築というキーワードのもと、『テーマ：探そう！誰も置き去りにしない“〇〇”～想像力を磨こう～』というテーマで活動を行う。
- ② 会員個人の専門性や特徴を活かし、伸ばす活動を意識する。
- ③ 出張講座を含め、九州各地への情報発信の機会を増やしていく。
- ④ 会員のスキルアップを積極的に行う。スキルアップセミナーとして「ファシリテーション」(2回)と、「ヒーブ視点のビジネス英会話」(1回)を実施する。

(2) 活動内容

- ① 月例研究会活動
 - ・会員運営の活性化をはかる。チーム体制を取り、役割を分担しながら、それぞれの成長に役立てる。
 - ・ヒーブ活動をして、会員の能力・資質の向上を目指す。また、実施回数を増やすことで会員満足度を高め、互いの交流を深める。
- ② 広報活動
 - ・随時、ホームページならびに Facebook を用いた情報発信を行う。
 - ・福岡・九州でのヒーブ活動を広く告知するための方策を練る。
- ③ 組織活動
 - ・新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、個人会員との連携を深め、積極的な参加を促す。
 - ・会員企業のヒーブに対する理解を高める活動を、上司に向けて行う。興味を抱ける研究会活動を企画。OB、上司、同僚の参加を呼び掛けて、巻き込んでいく。
- ④ 交流会
 - ・会員のネットワーク強化を目的とした交流会を実施する。

【スケジュール (予定)】

4月 月例研究会	ふれあいミーティング
5月27日 (土) 分科会	ファシリテーションのためのコミュニケーション基礎講座①
5月30日 (火) 支部大会・公開	グローバル×ダイバーシティ 場所：アクロス福岡 円形ホール
6月 スキルアップセミナー	ファシリテーション
7月 月例研究会	企業見学会予定 (フンドーキン)
8月 分科会	ファシリテーションのためのコミュニケーション基礎講座②
9月 分科会	ファシリテーションのためのコミュニケーション基礎講座③
10月16日の週 出張ヒーブ(宮崎)	生き方×職場×地域・行政 講演+ヒーブ・カフェ
11月 出張ヒーブ(会場未定)	グローバル×ダイバーシティ
1月 スキルアップセミナー	ヒーブ視点のビジネス英会話
2月 月例研究会	マラソンミーティング
3月 月例研究会	消費者志向経営

【九州支部 ヒーブのクレド】

- 人間力のある企業とは何かを考え、そのために行動します。
- 人間力あふれる地域の生活者として、考え、行動します。
- 一人の女性として、人間力を高めるために行動します。

Ⅱ. 予算

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	金 額	
前 期 繰 越 金		82,125
会 費		
正 会 員 85 名	5,100,000	
個 人 会 員 11 名	198,000	
小 計		5,298,000
入 会 金		
正 会 員 4 名	120,000	
個 人 会 員 2 名	10,000	
小 計		130,000
賛 助 会 費 31 口	1,550,000	1,550,000
雑 収 入		
預 貯 金 利 息	1,000	
特 別 例 会 費	735,000	
そ の 他	286,000	
小 計		1,022,000
収 入 合 計		8,000,000
総 合 計		8,082,125

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額	
活 動 費 (東京・関西・九州合計)	3,360,000	
東京	2,270,000	
企画活動	40,000	
研究会推進活動	1,345,000	
組織の活性化を図る活動	200,000	
広報活動	685,000	
調査活動	0	
関西	650,000	
九州	440,000	
運 営 費	4,240,000	
地代家賃	610,000	
人件費	1,750,000	
税理士報酬	360,000	
運賃・通信費	360,000	
交通費	680,000	
会議費	20,000	
消耗品費	160,000	
印刷費	140,000	
支払手数料	50,000	
交際費	10,000	
租税公課	90,000	
雑費	10,000	
事業活動積立金	400,000	
40周年行事積立金	100,000	
ホームページ構築積立金	100,000	
調査費積立金	200,000	
支 出 合 計	8,000,000	
当期利益	0	
次期繰越金	82,125	
総 合 計	8,082,125	